



“学びの森”だより

文月を迎えて

サルビア、マリーゴールド、日々草。庭先で、梅雨の晴れ間の太陽を浴びながら、色とりどりの花が、元気よく咲いています。こんなごく当たり前の日常の風景に心癒されるこの頃です。

「新しい生活様式」による毎日がスタートして早1か月。学校訪問の中で、今までにはなかった新たな光景に出会います。校内の至る所に置かれた消毒液。ソーシャルディスタンスを保つためにと、床に貼られた幾つもの足型。マスクの着用により、届きにくなった教師の声を生徒のところまで届くようにと、自作のマイクを付けながら授業をしている先生もいました。目の前にいる子供たちが、心身ともに健康で、笑顔いっぱい生活する学校を目指し、見えない敵に、日々、対峙されている先生方の姿には、頭が下がる思いです。一日も早い終息を祈らずにはられません。

7月は、旧暦でいう文月。先日、高校3年生と中学3年生の二人の息子さんがいるお母さんから、手紙をいただきました。彼女の手紙の中には、以下の内容が書かれていました。

(「学びの森だより」に載せる許可は、本人からいただいております。)

「(略) 長男のインターハイ、県大会が中止となり、次男の中体連も中止となりました。二人とも、不完全燃焼で終わってしまうことだけが残念でたまりません。同じような境遇の方もたくさんいることでしょう。悔し涙をたくさん流している方もいるでしょう。青春の1ページ、一番輝いている時期に何も出来ず、このような形で引退することが何より悔しいです。二人とも、承知はしているものの、本人しか分からない感情を思うと、気休めの言葉もかけられず、ただただ寄り添うばかりです。こんな状況でも、前を向いて少しずつ進んでいくしかありませんね。いつかこの思いが報われる日が来るといいなと思います。

(略)

誰に訴える訳にもいかず、ただただ「なぜこのタイミングなのか」という切ない思いが、どうすることもできない口惜しさとなって、溢れ出たのでしょうか。母としての思いは、痛いほど分かります。ポート部の主将となった、高校3年生の息子さんが、中3の時に語ってくれた夢は、教員になることでした。今、この厳しい時代を乗り越えた若者たちが、教壇に立つ頃には、世の中はどのように変化し、どんな学校が存在しているのでしょうか。今までの有り様にとらわれ過ぎず、柔軟な発想で、新しいものを創造していく力や、周りとの協調しながら自分の道を切り拓いていく逞しさこそが、一層、求められていく気がします。

そんな中、訪問した先で出会う子供たちはみんな笑顔でした。新しく始まった日常に順応し、決められた範囲の中で仲間と関わりながら学び合っている姿、パワー全開、中休みの短い時間の中でも、汗を流し、仲間と共にひたすらグラウンドを駆け回る姿。そんな姿に、大人である自分も、前に進む力をもらった気がしました。

どんな状況下に置かれても、子供たちのまっすぐな瞳の先にあるのは未来です。みんなで守っていきましょう。

(文責：照井 久美子)



第1回 研修主任研修会

「研修主任の役割を理解し、校内研修の効果的な進め方について情報交換をすることを通して、各校の授業改善の推進、校内研修の充実へつなげる」ことを目的として、「研修主任研修会」が開催されました。5月に予定されていた「地区研修主任者研修会」は中止となりましたが、静東教育事務所地域支援課の長本絵里教育主査を講師にお迎えして、お話を伺いました。グループ研修では、各校の校内研修計画の進め方について情報交換をしました。今年度は新しく研修主任を任される先生が多く、他校の校内研修について知る良い機会となりました。



<参加者の感想から一部紹介します。>

☆子供の発言(つぶやきなど)を記録して、その事実を追うことで、その子供の思考過程がみえてくることを学んだ。改めて、「子供の見方」の大切さや難しさを感じた。子供理解に深く関わることなので、今後の研修でも強調していきたい。また、評価の研修も進めていくが、子供の姿をベースに考えていきたい。

☆他校もコロナによって、研修の年間計画が変わり困っているようであった。他の学校が研修ですべての内容は、今後の自校での研修に生かせる内容が多く参考になった。できれば年度末に各校の取り組みの報告が聞けると、より効果があり、翌年度の研修に生かせるのではないかと思います。また、3観点の評価に関する研修会等を設定していただければ、我々研修主任が流れをつかみ、自校の先生方に伝えることができると感じた。

※長本先生から、NITS や、静東教育事務所HP「充実した授業の考え方」の紹介がありました。校内研修の参考に、ぜひご活用ください。

プログラミング教育推進委員会

プログラミング教育推進委員 14 名が参加し、開催されました。始めに「プログラミング的思考」とは、目的に合わせて活動内容を細かく分け、順序立てて並べ、より自分の意図した活動に近づくように論理的に考えていく、ということ、カードを使って確認しました。後半は、各校の実情についてグループで話し合いました。「プログラミング的思考」は特別なものではなく、普段の授業にも取り入れる場面はいろいろありそうです。この考え方は、これから生きる子供たちにとって、分野を問わず、必要なスキルだと感じました。



編集・発行：“学びの森”

〒410-1102

裾野市深良 435 番地

生涯学習センター 2 階

TEL：055-995-4903

FAX：055-995-4904

「学びの森」ホームページ公開中

<http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/data/224000>

